

パナマは微増、スエズは微減 — 運河通航船実態調査結果 —

当協会は、毎年会員各社の運航船舶（外国用船を含む）について、パナマ・スエズ両運河に係る通航実態・通航料支払実績の調査を実施しており、今般その結果がまとまった。

調査対象期間は、パナマ運河については2012年4月1日より2013年3月31日、スエズ運河については2012年1月1日より同年12月31日までとした(統計の連続性上)。

なお、運河トン数や通航料については用船契約によって用船者等が支払う場合があるため、実績が不明のものがあつた。このため、表中の実績は、調査回答船社が確認できる範囲で集計したものである。



注) 通航料不明や概算等があるため、グラフ中の隻数と通航料総額は対応していない

<パナマ運河>

a. 通航実績—微増

パナマ運河の利用状況は、**通航船社数**が前年度比較で3社増の18社と一昨年並みへ戻り、利用隻数(延べ)はほぼ横ばい(2012年:1016隻/2011年:1003隻)となった。同様に**G/Tベース・D/Wベース**ではそれぞれ43,368千G/T(2011年:42,317千G/T)、41,084千D/W(2011年:41,056千D/W)となった。

b. 通航料支払実績(確認分)

コンテナ船以外の料率の基本となる**通航船舶トン数**(PC/UMS : Panama Canal/ Universal Measurement System※1) ベースでは 27,359 千トンとなり、コンテナ船のベースとなる **TEU** は 965 千 TEU となった。この結果、全体の**通航料**では 216,335 千米ドル(2011 年 : 202,102 千米ドル、**概算値含む**)となった。

a. パナマ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2003	14	835	32,525	27,883
2004	13	941	38,710	31,875
2005	17	1,011	42,158	35,998
2006	18	1,284	55,484	42,608
2007	18	1,216	52,405	43,064
2008	19	1,129	48,952	45,087
2009	17	887	40,632	38,385
2010	17	940	40,263	36,866
2011	15	1,003	42,317	41,056
2012	18	1,016	43,368	41,084

b. パナマ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	通航料	
				千 USドル	億円(参考)
2003	835	30,810	-	102,157	122
2004	941	39,908	-	115,424	124
2005	1,011	40,083	-	136,981	155
2006	1,284	51,111	-	178,590	209
2007	1,211	34,692	1,127	204,925	227
2008	1,100	28,442	1,123	224,246	225
2009	887	29,234	1,170	195,781	181
2010	940	27,154	1,019	207,716	177
2011	878	26,570	921	202,102	160
2012	871	27,359	965	216,335	180

注 1)2012 年の通航料の円換算率は、2012 年 4 月～2013 年 3 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=83.29 円を採った。

注 2)2005 年 5 月より、コンテナ船に対する通航料は、TEU 当たりの料金とする課徴方式に変更となったため、2007 年度調査から延 PC/UMS にはコンテナ船の分を含まないこととした。

注 3)通航料については概算値含む。不明運河トンについては 0 としてカウントし、延隻数・通航料も除外。

c. 船種別内訳(2012. 4. 1～2013. 3. 31)

船種別でみると、延隻数では、**自動車専用船**が 339 隻→356 隻、**コンテナ船**が 196 隻→209 隻と微増、PC/UMS ベースでもそれぞれ 18,427 千トン→19,575 千トン、921 千 TEU→965 千 TEU と上昇した。それ

に伴い通航料も自動車専用船が前年度比 8.5%の増加(2012年：93,046 千米ドル/2011年：85,760 千米ドル)、コンテナ船が前年度比 7.3%の増加(2012年：89,753 千米ドル/2011年：83,609 千米ドル)となった。概算値や不明運河トン等数値の加除、通航料の上昇を含むため単純比較は難しいが、昨年に比べ上昇傾向がみられる。

コンテナ船は2002年の1隻あたりの通航料(総通航料÷通航延べ隻数の単純計算)は約120,000米ドルだったのに対し、2012年の1隻あたりの通航料は約430,000米ドルと、10年間で3倍以上となっている。その他、同10年間の値上げ幅が大きいのは自動車専用船で、1隻あたり通航料が2002年：約142,000米ドル⇒2012年：約261,000米ドルと1.8倍程度に上がっている。

c-1.船種別通航実績内訳

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	6	70	1,601	2,570
バルクキャリア	10	363	10,563	18,454
自動車専用船	4	356	19,640	6,319
コンテナ船	3	209	11,201	13,253
在来定期船	3	17	313	480
その他船舶	1	1	50	8
合計	18	1,016	43,368	41,084

注) 社数合計の18は、調査期間中にパナマ運河を通航した会員船社数であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

c-2.船種別通航料支払実績(確認分)内訳

(通航料=千USドル)

船種	延隻数	延千PC/UMS	延千TEU	通航料
タンカー	70	1,350	-	5,350
バルクキャリア	235	6,393	-	27,969
自動車専用船	356	19,575	-	93,046
コンテナ船	209	-	965	89,753
在来定期船	0	0	-	0
その他船舶	1	41	-	217
合計	871	27,359	965	216,335

注) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては0としてカウントし、延隻数・通航料も除外。

なおパナマ運河全体では、同運河庁発表の2012年度実績によると世界経済の減速や主要経済の需要減により隻数は微減(前年度比0.95%減)したもののPC/UMSについては前年度比3.6%増となり、昨年引き続き過去最高となった。運河トン数の増加(値上げも実施)に伴い通航料収入も前年度比7.1%増の1,852.4百万ドルに達した。

<スエズ運河>

d. 通航実績一微減

スエズ運河の利用状況は、通航船社数は前年比3社増の12社と一昨年並みとなったものの、利用隻数(延べ)は7.6%減(2012年：1,246隻/2011年：1,349隻)、G/Tベースでは5.5%減(2012年：82,951千

G/T /2011年：87,782千G/T)、D/Wベースでは6.4%減(2012年：69,176千D/W /2011年：73,878千D/W)となった。

e. 通航料支払実績(確認分)

料率の基本となるスエズ運河トン数(SCNT：SUEZ Canal Net Tonnage※2)ベースでは、61,962千トンとなり、この結果、全体の通航料は395,163千米ドル(2011年：414,365千米ドル)となった。

d.スエズ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2003	13	1,034	51,053	48,155
2004	13	1,203	61,481	55,102
2005	14	1,209	61,014	56,543
2006	16	1,322	61,426	52,359
2007	21	1,595	85,595	77,905
2008	22	1,626	91,830	81,048
2009	13	1,248	74,905	64,440
2010	11	1,272	76,517	61,239
2011	9	1,349	87,782	73,878
2012	12	1,246	82,951	69,176

e.スエズ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 SCNT	通航料	
			千 USドル	億円(参考)
2002	842	42,898	189,060	237
2003	1,034	52,018	243,051	282
2004	1,203	60,543	307,470	333
2005	1,209	58,233	303,102	334
2006	1,322	57,929	330,653	385
2007	1,574	81,839	449,637	530
2008	1,620	90,906	514,002	532
2009	1,149	61,552	370,759	342
2010	1,174	64,831	386,848	338
2011	1,199	66,206	414,365	330
2012	1,101	61,962	395,163	316

注 1)2012年の通航料の円換算率は、2012年1月～12月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=80.09円を採った。

注 2)通航料不明分については0としてカウントし、延隻数・運河トンも除外。

f. 船種別内訳（2012. 1. 1～2012. 12. 31）

船種別でみると、延隻数では、コンテナ船が 590 隻→551 隻と減少し、自動車専用船も 357 隻→335 隻となった。SCNT ベースでは、それぞれ 41, 825 千トン→39, 881 千トン、20, 136 千トン→19, 051 千トンとなった。その結果、通航料もコンテナ船が 2%の微減(2012 年 258, 079 千ドル/2011 年:263, 255 千ドル)、自動車専用船が 4. 6%減(2012 年 : 110, 216 千ドル/2011 年 : 115, 498 千ドル)となった。

f-1. 船種別通航実績内訳

船 種	社 数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	7	226	6,729	8,222
バルクキャリア	4	36	536	761
自動車専用船	4	335	19,030	6,345
コンテナ船	3	551	45,978	46,080
在来定期船	1	1	14	20
その他船舶	1	97	10,304	7,748
合 計	12	1,246	82,591	69,176

注)社数合計の 12 は、調査期間中にスエズ運河を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

f-2. 船種別通航料支払実績（確認分）内訳

(通航料=千 USドル)

船 種	延隻数	延千 SCNT	通航料
タンカー	181	2,643	25,028
バルクキャリア	33	374	1,712
自動車専用船	335	19,051	110,216
コンテナ船	551	39,881	258,079
在来定期船	1	13	128
その他船舶	0	0	0
合 計	1,101	61,962	395,163

注)通航料不明分については 0 としてカウントし、延隻数・運河トンも除外。

なおスエズ運河全体では、同運河庁発表の 2012 年度実績によると隻数・運河トンともに微減(前年度比 3. 2%減・0. 05%減)となっており、当局によれば LNG 船とコンテナ船のトン数の減少によるものと見られている。

※1 PC/UMS(The Panama Canal/Universal Measurement System) :

1969 年の船舶のトン数の測度に関する国際条約をベースに算出されたパナマ運河庁が 1994 年より採用している船舶容積の測定方法。

※2 SCNT(SUEZ Canal Net Tonnage) :

純トン数規則をもとに、スエズ運河当局独自の控除基準を加えて算出する。二重底船の船底にバンカー油を積載した場合その部分の控除を認めない等、パナマ運河や各国の規則とも異なる独特のもの。